

## <令和4年度事業報告>

### 1. 報告事項

#### (1) 令和4年度事業報告について

当法人の令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）における事業の概要を次のとおり報告いたします。

#### 1、事業の概況

当年度は一般社団法人11期目にあたります。同窓会離れや高齢化、コロナ禍の影響もあり会員数減少が予想され、少額の黒字予算としました。会費収入は減少したものの、コロナ禍による事業や行事の中止があり当初想定していた経費が発生しませんでした。しかし、大学創立120周年基金への寄附や東京・大阪支部支援と計画になかった費用発生がありましたが、全体では黒字を確保することができました。

会員向け事業として現役世代向けでは、横のネットワークである年次別同期会開催を精力的に支援し、ホームカミング日の講演会は成功裏に終えられましたが、コロナ禍のため大学構内での懇親会は開催できませんでした。縦のネットワークとして社外役員・経理財務・人事などの懇談会を通じ、会員相互の交流、入会勧誘、会費納入促進を強化しました。

将来を見据えた会員の多様なニーズ把握、現役学生である準会員をはじめ、若年層、現役世代、OB層まで幅広い年齢層に対応した多彩な事業の検討を進めてまいりました。

準会員対策では、法・経済・経営の3学部生を対象に凌霜出身者が講師を務める「寄附講義（7年目）」はリアル開催し、受講生には大変好評でありました。新型コロナウイルス感染拡大の影響も少なくなりベルカンの共催の就活セミナーは実施できました。入学時の新入生歓迎会（R4.4）は実施できませんでしたが、卒業式（R5.3）は開催され、引き続いての謝恩会は3年ぶりに賑やかに開催されました。謝恩会終了後大学へ戻り記念写真を撮りたいという学生の要望を受け、謝恩会会場から大学まで行くチャーターバスを調達し、学生には大変喜ばれました。年間を通じて母校愛や凌霜会に対する帰属意識醸成を図りました。

支部対策では、支部代表者会議を9月にWeb開催し（20支部の代表者が出席）、本部と支部の意見交換を図りました。さらに、東京・大阪両支部はコロナ禍の影響を大きく受け財政的に窮地に陥っており、凌霜会から支援を行いました。また地方支部の総会は新設の奈良支部を除き、全て中止となりました。

母校・神戸大学は「知と人を創る異分野共創研究グローバル拠点」を目指してしています。とりわけ令和4年度は神戸大学創立120周年であり、大学からの要請を受け、寄附金を拠出しました。大学支援の実現には同窓会の協力が不可欠で、凌霜会は兄弟

組織である公益財団法人神戸大学六甲台後援会と協働し、大学当局との連携、支援強化に努めています。

#### (1) 収支状況（前年比較）

経常収益では、令和3年度から導入した入会金が4,140千円（前年：5,110千円）と減少、受取会費は正会員の会員数減、準会員累計会員の減少により39,140千円（前年41,340千円）と2,200千円の減少でした。その他事業収益及び寄附等については234千円の増加となりました。その結果、経常収益全体では46,941千円となり前年（前年49,530千円）と比較して2,589千円の減収となりました。

一方、経常費用は、事業費についてはコロナ禍のため各種事業が実施出来なかったことや経費見直し等を行い、経費削減となりました。大学創立120周年募金の拠出（3,000千円）や東京・大阪支部支援（1,000千円）など当初計画になかった支出がありました。結果として事業費計では43,096千円（前年43,515千円）となり419千円減少しました。

管理費については労務費の削減等により、1,864千円（前年：1,958千円）となり94千円減少となりました。

費用全体では44,960千円（前年45,473千円）となり513千円減少しました。

その結果、期中の経常増減額は1,980千円（前年4,057千円）となり2,077千円の減少となりました。

#### (2) 事業活動

##### ① 会員名簿の整備と維持管理

- ・ 会員データベースの管理では、住所変更や異動情報、会費支払いをインターネットで行うデジタル化を推進し、準会員、若手、現役世代の利用が伸びました。
- ・ 会費の納付方法については銀行口座自動引落としキャンペーンを継続実施した結果多くの方々から申込を頂き、毎年支払い者のうち銀行口座自動引落としの構成比が35%から40%と大幅に増加し振込手段別では一番多くなりました。次年度も継続する予定です。
- ・ 新入生対策では、六甲台部局の協力を得て合格通知に凌霜会入会申込書などを同封しました。新入生の入会者減少傾向に歯止めをかけるため、従来にない入会特典付与や各種学生支援活動を駆使し入会活動を積極的に展開しましたが新入準会員の入会は3月末時点では昨年度に引き続き低調でありました。（大学院含む：入会者310名、入会率28%）R3年度同時期：316名（28%）。昨年度は6月以降、新1年生・2年生に再度の入会勧誘活動を実施実施し、相当の増加があったので令和5年度も実施予定です。
- ・ 現役学生である準会員対策として、六甲台部局と協力して実施していた新任ゼミ

幹事オリエンテーション、七夕祭や六甲祭などはコロナ禍の各種制約のもとではありましたがベルカン等と協賛で開催しました。

## ②会員相互の連絡及び研修

- ・各会合はコロナ禍のため殆どが中止となりました。
- ・午餐会講演会  
通算 1,550 回を超える講演会（講師は大学の先生、凌霜 OB）について今年度は人数制限をしたうえで 10 回開催しました。
- ・各種講演会の内容を動画で Web 配信しました。

## ③会報及び電子会報の発行

- ・会誌「凌霜」を 4 月、7 月、10 月、1 月の年 4 回発行。カラー面の充実、準会員や若手会員の活動や投稿の掲載など、幅広い年齢層の読者に対応しました。また、在学生向けには Web 配信をするなどにより費用を削減しています。
- ・ホームページや準会員向け「凌霜ジュニア」、「凌霜アドバンス」及び正会員向け「凌霜ビジネス」メールマガジンの内容充実に加え、準会員・若手向けにツイッター等の SNS を多数発信し、凌霜 OB や神戸大関連のニュースを提供しました。

## ④経済、経営、法律に関する調査研究及び奨励に関する助成

- ・神戸大、一橋大、大阪市立大の旧三商大の学生が実施している「三商ゼミ討論会」はコロナ禍のため今回も中止となりました。

## ⑤経済、経営、法律に関する知識を普及向上するための講習会、研究会の開催に対する助成をしました。

- ・寄附講義は久しぶりにリアル開催となり、内容の充実及び進め方を大幅に刷新し、受講生からは大変好評でありました。3 学部の 1、2 年生を対象に、第一線で活躍中の凌霜 OB が、生きた法学、経済学、経営学に加え講師の経験に基づいたライフワーク、キャリア形成を教える凌霜会寄附講義「社会科学の実践」を 7 年連続で開講しました。
- ・マーケティング入門講座、地方就活企画等を実施し、学生の共感を醸成しました。

## ⑥その他、法人の目的を達成するために必要な事業

- ・準会員の就職活動を支援するために、六甲台部局と共同して「六甲台就職相談センター」を支援し、フェイス・ツー・フェイスの就職相談と指導を実施しました。
- ・全学の同窓会の連合体である学友会が令和 5 年から校友会に移行することになりその準備委員会に参画しました。今後、具体的な活動計画が示される予定です。

## 2. 機関決定

### (1) 理事会

#### ① 令和 4 年 5 月通常理事会開催

- 1) 令和 3 年度事業報告及び決算書類承認の件、
- 2) 総会招集の件、
- 3) 理事選任の件、

4)凌霜会創立 100 周年記念事業実行委員会設置の件について付議しました。

以上の議案に関して原案通り承認いただきました。

② 令和 4 年 6 月臨時理事会開催

1)理事長選任の件、2)副理事長選定及び理事長職務代行順位決定の件、3)専務理事選定の件、4)相談役・顧問任免の件について付議しました。以上の議案に関して原案通り承認いただきました。

③ 令和 5 年 3 月通常理事会開催

1)神戸大学創立 120 周年寄附金拠出の件、2)東京支部・大阪支部支援の件、3)令和 5 年度事業計画及び予算の承認の件、4)凌霜会創立 100 周年記念事業実施の件、5)播磨支部設置の件について付議しました。以上の議案に関して原案通り承認頂きました。

(2) 総会

①令和 4 年 6 月 25 日に第 11 回定時総会開催

1)令和 3 年度決算書類承認の件、2)理事選任の件について付議しました。原案通り承認頂きました。